

第5回九州実務補習所ディスカッション

テーマ3 2班Aチーム

「IFRSを強制適用すべき」

議論の前提

今回の議題は「一定程度海外進出を行っている日本企業に対してIFRSを強制適用すべきか。」であるが、対象となる企業を、「海外向けの売り上げが、連結財務諸表の売上高の20%超である企業」を前提とする。

これは、企業会計審議会が公表した、『国際会計基準（IFRS）への対応のあり方についてのこれまでの議論（中間的論点整理）』において、「IFRSの強制適用の是非の判断対象となる企業は、相当絞られるべきである。」（企業会計審議会、2012、8頁）という意見に基づいたものである。

IFRS採用のメリット

①海外投資家からの資金調達が容易になる

日本基準により作成された財務諸表は、海外投資家の視点からすると、信頼性に欠けるものがあり、それが海外投資家の日本市場参入の障壁となっている一面がある。そこで海外投資家からの信頼性が高いIFRSを適用することによって、海外投資家から幅広い資金調達がしやすくなることが考えられる。

②海外の子会社の管理が容易になる

海外に子会社や支店を保有する企業がIFRSを適用すると、会計基準が統一され、連結財務諸表の作成が容易となる。これに伴い、グループ全体の経営状況の把握が容易となり、意思決定の適時性、適切性が向上することが考えられる。

IFRS強制適用のメリット

IFRS採用企業の増加により、IFRSの策定において日本の意見が反映されやすくなる。IFRSの監視団体であるモニタリングボードのメンバー要件には、「当該国においてIFRSを顕著に使用していること」という要件がある。一部企業にIFRSの強制適用を行うことで、IFRS採用企業数を一定程度確保でき、それによってIFRSの策定プロセスのなかで、日本の意見を表明することができる。

【参考文献】 (2024/6/27 情報取得)

企業会計審議会 「国際会計基準（IFRS）への対応のあり方についてのこれまでの議論（中間的論点整理）」

<https://www.fsa.go.jp/inter/etc/20120702-1/01.pdf>

IFRS財団モニタリング・ボードプレスリリース

<https://www.fsa.go.jp/inter/etc/20130301-1/01.pdf>

パーソルワークスデザイン 「IFRSとは？導入するメリットとデメリット、日本での現状や会計基準の違いについて解説」

<https://www.persol-wd.co.jp/column/accounting-ifrs/>